―特集〔甲状腺外科領域に於けるトピックスについて（1)〕―

巻頭言：『甲状腺外科領域に於けるトピックスについて』の特集にあたって

軸薗　智雄
日本医科大学内分泌外科

このたび，甲状腺外科領域に焦点をあてた特集を組ませていただき，大変光栄です．この領域に於けるトピックスについて，専門の各先生方に最近発行された「甲状腺癌取扱い規約第9版」や「甲状腺腫瘍診療ガイドライン2024」の内容を盛り込んでいただきながらご執筆をお願いしました．

まず，私共の分野の第一人者である杉谷教授に「甲状腺がん診療の最新の動向」と題し，この企画全般について詳細かつ大変分かりやすくまとめていただきました．近年，甲状腺腫瘍学の分野では世界的なパラダイム・シフトが起きており，「診療の縮小化の流れ」や「進行・再発甲状腺がんに対する薬物療法の進歩」が大きなトレンドであると言えます．

前者に関連して數阪先生に「甲状腺微小癌のアクティブ・サーベイランス：現状と今後の課題」と題し，後者は銭先生に「甲状腺がんの薬物療法の現状と展望」と題してご執筆いただきました．

杉谷教授が，前任のがん研有明病院にて1995年より積極的経過観察（active surveillance：AS）の臨床試験を開始された研究は，その後当科で引き継ぎ，今ではASの世界的な中核拠点になりました．また，甲状腺がんに対する薬物療法は，分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により激変したと言っても過言ではございません．しかし，明るい部分だけでなく，まだまだ様々な課題が残されています．

次に，病理医の立場から大橋教授より，新WHO分類を参照しながら最新の甲状腺癌取扱い規約について，これも簡潔明瞭にご執筆いただきました．新規約の最大の改訂点は，良悪性の“境界病変”が「低リスク腫瘍」として導入され，また，低分化癌と未分化癌の間に付記する形で高異型度分化癌が記載された点です．今後，これらの新たな疾患概念は私共の分野で広まり，本邦独自のデータの蓄積や研究発表に役立つものと考えます．

最後に，「VANS手術の過去・現在・未来」と題して長岡先生にご執筆をお願いしました．

VANS手術とは，本学の清水一雄名誉教授が1998年に開発された内視鏡補助下頸部手術（video-assisted neck surgery）であり，本邦独自の発展を遂げています．VANS手術は長らく保険未収載でしたが，2016年に良性疾患に，2018年に悪性疾患に対し保険収載され，徐々に国内各地へ普及してきています．

多くの方々が本特集号をお読みになり，この領域について理解を深めていただければ幸いです．